

季刊 ジャネット Ja-Net

No.31

2004年10月25日発行

- View from the Other Side 3
- あちこち日本語ご紹介[新潟県 柏崎市] 4
- あちこち日本語ご紹介[モルドバ共和国 キシナウ] 5
- 教材紹介
 - 『中級へ行こう 日本語の文型と表現59』 6
 - 『短期集中 初級日本語文法総まとめ ポイント20』 7
 - 『日本語教師のための新しい言語習得概論』 7
- なんでも情報BOX 8

Ja-NetはJapanese Networksの略です。[日本人]と通じて情報と読者の情報とを交換したいと考えています。

スリーイーネットワーク

巻頭寄稿

日本語学習支援から外国語学習へ

ーフォーラム「ことばとネットワーク」開催に寄せてー

◆ 慶應義塾大学総合政策学部教授
平高 史也



80年代の中国帰国者やインドシナ難民、90年代の外国人労働者の急増によって、地域の日本語学習支援の輪が広がっている。国内の日本語学習者の主役が留学生や技術研修生、ビジネスマンや宣教師といった時代は終わり、日本語学習者のすそ野が広がりつつある。同じ頃から多言語主義、多言語多文化社会といったことばが聞かれるようになった。ここ十数年のうちに日本も多言語化したというようなことが言われるが、むしろ日本も多言語社会だったことが認識されるようになったと言わなければならない。では、このような多言語社会で私たちはどのような言語生活を営んだらいいのだろうか。異なる言語や文化が共存する社会で、みんなが等しく豊かになるにはどうしたらいいのだろうか。

「ヒューマンセキュリティ」の基盤としての言語政策

慶應義塾大学政策・メディア研究科では昨年度「日本・アジアにおける総合政策学先導拠点：ヒューマンセキュリティの基盤的研究を通して」*（文部科学省「21世紀COEプログラム」の1つ。以下「政策COE」と略す）を立ち上げた。このプログラムの目的はヒューマンセキュリティに関する研究を通して総合政策学を解き、日本・アジアにおけるこの領域の拠点を形成することにある。「ヒューマンセキュリティ」はもともと国連開発プログラムで提起された概念で、個人や社会が安全・安心・信頼によって結ばれることを目標としている。政策COEには研究プロジェクトが8つあるが、そのうちの1つが「『ヒューマンセキュリティ』の基盤としての言語政策」である。言語は人間のあらゆる営みに関わるものであり、人間社会の安定に

資すべきものであろう。言語使用者としての人間は、安定した社会の構築に寄与するコミュニケーション・ネットワークをどのように形成していくのだろうか。この点の解明がヒューマンセキュリティの基盤形成につながり、そこから具体的な言語政策の提言が導き出されるはずである。このような動機に導かれ、私たちは多言語多文化社会日本における外国籍住民との共生の問題に取り組んでいる。

この問題についてはすでに多くの試みがなされているが、それらの中には外国籍住民に対する「支援」という名のもとに行われているものが多いのではなかろうか。「日本語学習支援」ということばがよく聞かれるのもそのためであろう。外国籍住民に対する支援も大切だが、私たちのプロジェクトの主たる関心は支援する側の日本人の意識や活動にある。地域や学校の日常の場に外国籍住民が隣人として、外国籍児童生徒がクラスメートとして生活しているという状況は、数十年前までは考えられなかったことで、海外に行かなくても異文化を体験し、いながらにして「国際化」を進められる絶好の契機となろう。異なることばや文化をもった外国人との接触は、自己を豊かにするいいチャンスなのだと思う。例えば、ブラジル出身者に日本語を教え、その子女の母語教育を考えるには、「支援する側」に立つ日本人がポルトガル語という外国語を知っていたほうがいい。問題は日本人がそのポルトガル語に心を開けるかなのである。望ましいのは「母語教育」にも「外国語教育」にも同じスタンスで取り組める社会、「支援する側」「支援される側」といった二分法や「外国籍住民」「日本人」といった区別もなくなって、お互いに対等の立場で交流する社会の実現であろう。

具体的な研究活動

私たちのプロジェクトのフィールドは長野県と神奈川県藤沢市である。前者では県下のリソースセンター（長野、上田、小諸・佐久、豊科、伊那、諏訪、飯田）の、後者では市内の小中学校に開設されている国際教室（日本語指導教室）のネットワーク化を目指している。

長野県では、県の行政と（財）長野県国際交流推進協会が中心になって、2001年度から「県政改革ビジョン」にもとづく外国籍住民のための生活支援施策や、不就学の外国籍児童生徒に対する教育の機会保障活動（「サンタ・プロジェクト」）などが展開されている。こうした状況を背景に、私たちは長野県内に点在する親子の日本語教室やリソースセンターを各地域の住民が支えあう共生の場ととらえ、日本語「教育」や外国籍住民「支援」を超えた異文化交流がどのように進むかをネットワーク化の観点から記述しようと考えている。特に発足してまだ日の浅いリソースセンターが各々どのようなプロフィールを持ち、ネットワーク化をどのように展開していくかは興味深いところである。地勢的に交流が困難な長野県特有の事情はインターネットの力で克服することもできるのではないかと考え、遠隔会議システムの導入も試みている。

藤沢市は北部に大手の自動車工場の下請け会社が多い、インドシナ難民定住センターのあった大和市に隣接している、などの理由でミニ多言語社会の様相を呈している。学校教育では、90年代の初頭に6言語による家庭への通知文や小中学校の指導の手引きが作成されている。また、教育委員会が慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス（以下「SFC」と略す）と共同で制作した、南米出身児童生徒と保護者のためのスペイン語・ポルトガル語・日本語による日本の小学校紹介ビデオは、市内の小中学校に配布されている。さらに、SFCのボランティアの学生たちが1992年の湘南台小学校日本語指導教室の開室以来、担当の先生方のご指導をいただきながら、教科指導の補助をしている。最近ではその学生たちが一般教室で国際理解教育の実践「身近な異文化を知ろう」プロジェクトを行っている。その一環として6月から総合的な学習の時間に国際理解の実験授業を実施し、国際理解教育のアクティビティやスペイン語の授業、ペルーの文化紹介などを扱っている。この実験授業は外国籍児童の存在を日本人児童を豊かにする契機ととらえた試みの好例と言えるだろう。



SFCと湘南台小学校主催で行われたイベント「みんなでペルーを踊ろう」。ペルー人講師を迎えた民族舞踏講習会には13名の児童が参加し、その成果を全校生徒の前で披露した

フォーラム「ことばとネットワーク」

こうした研究活動の中間報告の場として本年12月にフォーラム「ことばとネットワーク」を開催する。このフォーラムのキーワードは「多言語多文化社会」、「人的ネットワーク」、「ITによるネットワーク」である。多言語多文化社会では、人的ネットワークやITによるネットワークはさまざまな言語的文化的背景をもった人間の共生にどのように貢献できるのか、その一端を明らかにしようと考えている。フォーラムの前半はパネリストに庄司博史（国立民族学博物館）、野山広（国立国語研究所）、重松淳（慶應義塾大学）の各氏をお招きし、3つのキーワードを軸に多言語多文化社会における「内なる国際化」の実現の可能性について探りたい。午後はこれら3つのキーワードをそのままテーマとして3つの分科会を設ける。「多言語多文化社会」の発題者には吉富志津代氏（多言語センターFACIL）、徳井厚子氏（信州大学）を予定している。吉富氏にはNPO活動を通して「支援」する側がどのように外国籍住民に接しているのかを、徳井氏には日本語を母語とする者としいない者とのコミュニケーション上の問題点と課題を地域のホストファミリーへの調査等をもとにお話しいただき、多言語社会におけるマクロとミクロのレベルでのネットワーク化について考えたい。「人的ネットワーク」では春原直美氏（長野県国際交流推進協会）に長野県の外国籍住民支援活動やリソースセンターのネットワーク化の展望や問題点などを、所澤潤氏（群馬大学）に外国人児童生徒の存在を前提とした教員養成制度の構築を目指した研究活動をご紹介いただき、社会や学校における外国籍住民・児童生徒に対する日本人の関わり方を考える。そして、「ITによるネットワーク」では砂岡和子氏（早稲田大学）にインターネットを用いた授業実践についてご報告いただき、ITによる交流が国際理解に果たす役割について議論を深めるほか、多地点遠隔会議システムのデモンストレーションも織り込む予定である。

外国籍住民が増えただけでは社会が多言語化するわけではない。彼らの日本語学習の支援も有意義だが、それだけでは日本社会は日本語だけの単一言語社会になりかねない。大切なのは「受け入れ社会」である日本語を母語とする側が外国籍住民の存在を契機に多言語への意識を育てていくことだ。フォーラムがそのあたりの認識を高めるきっかけになればと願っている。

* 慶應義塾大学21世紀COEプログラム「日本・アジアにおける総合政策学
先導拠点：ヒューマンセキュリティの基盤的研究を通して」
<http://coe21-policy.sfc.keio.ac.jp/ja/>

● フォーラム「ことばとネットワーク」については本誌最終頁、当社HP
(<http://www.3anet.co.jp>) に情報を掲載しています。

平高史也（ひらたかふみや）

慶應義塾大学総合政策学部教授、政策・メディア研究科委員。研究分野はドイツ語教育、日本語教育、社会言語学。主要著書：『日本語教授法』（共著）（桜楓社）、『日本語教育史』（共編著）（アルク）、『日本語中級J301-基礎から中級へ』・『日本語中級J501-中級から上級へ』（共著）（スリーエーネットワーク）

VIEW FROM THE OTHER SIDE

中国帰国者からのメッセージ

「日中文化交流をすすめ、中国帰国者を支援する会」
京都市伏見区小栗栖日本語教室受講生



日本語教室の先生に「ありがとう」

中学2年 井ノ口佳奈

私は5年ぐらい日本語教室に通っています。今では、(お)なじみの先生もいます。日本語教室では、(学校の)宿題やテストでのわからないところを紙に書いて教えてもらったり、何回もくり返し、くり返しわからないところをわかるようになるまで教えてもらっています。



日本語教室では年に2回、春と秋に『文化交流会』が行われています。それは、中国から帰ってきた人や、その子ども、孫、先生たち、そして古くから小栗栖地域に住んでいる人たちと一緒に肉まんやサラダや餃子を作って食べるのです。(そして)勉強したことの発表もします。私たちは「ライオンのおよめさん」という紙芝居をしました。作る過程が楽しく、発表では緊張しました。また別の『交流会』の日には、笛で「もののけ姫」を吹きました。年に2回の『文化交流会』を楽しみにしながら日本語教室での勉強をしています。

先生は熱心に教えてくれます

清原力也

私は清原力也といいます。2002年の年末に日本へやってきました。すでに1年半が経ちました。

夜学(小栗栖日本語教室、週1回で2時間の授業)で日本語を学んで、早くも1年が過ぎました。私は日本語の学習はとても難しいと感じています。主な理由は、記憶ができず、覚えるのに時間がかかり、忘れるのが早いからです。夜学で学んでいて最も印象的なことは、環境が綺麗なことです。

先生方は、私たち中国からの帰国者に対して、非常に熱心で、友好的です。教え方についても、用意周到で、我慢強く、特に生徒に対して責任感



が強いんです。あらゆる方法を駆使して私たちに日本語を教えてください。先生の指導と教えて、私の今の日本語レベルは、ヒアリングが10%はわかるように、喋るのも5%くらいはできるようになりました。

今後は、さらに努力し、先生の指導や教えをよく聞いて、日本語を習得し、早いスピードで日本の生活習慣に適應できるようにします。

すべての先生方が私に、関心・援助・理解してくれています。心から感謝しています。

お医者さんとの会話も少しできるようになりました

山中真理子

残暑度光、秋風涼爽、心身健康、在日快活

私はやまなかまりこです。中国・黒龍江省出身です。1992年11月22日に、中国から日本に来ました。そのとき、残留孤児だった主人は、埼玉県に住んでいました。私が来日したので、一緒に京都に住むようになりました。1997年、主人は病気で亡くなりました。その後、子どもは結婚して独立しました。今、私は1人で住んでいます。



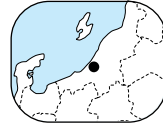
最初は、日本語が全然わかりませんでした。日本で生活するのに困りました。1998年8月1日、野中和代さんと奥山イク子さんが、帰国者を支援する会で、帰国者のための日本語教室を開いてくれることになりました。私たちはとてもうれしかったです。

先生たちは(今は、本江啓三・出口隆章・宮内英价の3先生です)情熱をもって教えてください。お陰で、私たちは簡単な会話もできるようになりました。前は、病院では、お医者さんとの会話ができませんでした。例えば「どのように痛いですか」と言われても、意味がわかりませんでした。「ちくちく痛い」のか、「ずきんずきん痛い」のかです。今は、手や足の名前も全部わかるようになりました。

今後は、もっと根気よく、一生懸命努力して、日本語がもっとよく話せるようになり、日本でずっと生活できるように頑張りたいと思っています。

あちこち日本語ご紹介

国内編



新潟県
柏崎市

夕陽の向こうから

新潟産業大学人文学部
鶴田洋子

海の向こうから

夏の日本海は穏やかに人々を受け入れてくれる。海岸は海水浴を楽しむ人々で賑わう。白い砂に打ち寄せる波はやさしく、小さな子供をも遊ばせる。穏やかに1日が終わり、大きな夕陽が、水平線の向こうまで真っ赤に染めて、静かに沈んでいく。

冬の日本海を見た人は、この海が夏の海と同じなのかと驚くかもしれない。低く重くたち込める鉛色の空。激しく吹きつける季節風。波が岩に叩きつけられ、波の花が舞う。波の花は石鱈の細かい泡のようにふわふわと漂い、また波間に吸い込まれていく。

大陸から吹く季節風は海を渡るうち水分を含み雲が発達し、やがて雪になる。地球温暖化とはいえ、日本海側の冬の気候といえば冷たい季節風、そして雪なのである。海の向こうの国から様々な形で影響を受け続けている地、新潟県柏崎市に新潟産業大学がある。

新潟産業大学人文学部

11年前、新潟産業大学に人文学部が設立された。それはまさに海の向こうの国との交流を中心にすえた学部であった。日本語学習者数のいつも1、2位を占める韓国や中国を中心に、ロシアなども含めて学部学生の3分の1にあたる留学生



インターナショナルな雰囲気卒業式。前列右から3番目が筆者

を受け入れたのである。

日本人学生は中国、韓国、ロシアの言語や文化なども学ぶ。受け身で学ぶだけでなく、学生間でもお互いに言葉の教師になり、無意識に獲得した母語も意識化し教えあう。教えることは学ぶことであり、自国の文化あるいは相手の文化をも理解するのに役に立つ。

この地でそのような教育を行うことは国際化時代を生き抜く人材の養成という点で非常に意味のあることに思われた。私もまた日本海側出身であり、夏は海で遊び冬は雪を眺め、そして海の幸を受けて育った人間であるから特にその思いが強かったのかもしれない。

学内で行われた第1回スピーチコンテストは大変印象深かった。中国語でスピーチを行う日本人と日本語でスピーチを行う中国人とが控え室でお互いの発音を熱心にチェックし合っていた。新潟産業大学のスピーチコンテストは柏崎市及び柏崎地域国際化協会との共催で毎年行われ、今年は11回目を迎えるのだが、基本方針は変更されていない。それは留学生の日本語と日本人の外国語がスピーチとして発表されることにある。日本人が外国人の日本語だけをものめずらげに聞くのではなく、日本人も留学生も等しく外国語に挑戦する場としてこの催しが続けられているのである。

日本にいても海外留学

現在、経済学部（経済学科、産業学科）人文学部（地域文化学科）の合計で留学生の数は200人を超えている。大部分は中国、韓国、ロシアなど、この海の向こうから来た留学生である。その他提携校との交換留学生、短長期研修生、科目等履修生などまさに日本語教育多様化

時代を反映して学ぶ目的も多岐にわたる。

本格的な勉強に向けて外国に巣立った日本人学生、日本国内の大学院に進学した留学生は多数にのぼる。就職の道を選んだ日本人、留学生もまた多数であることは言うまでもない。本学を「日本にいても海外留学」と紹介した雑誌もあるが、多言語が飛び交い、外国籍の教授にその言語で話しかける日本人学生もいる中、海外での勉強や仕事を選ぶことに違和感を持たない人が出てくるのも不思議はない。

今年の夏は台湾から14名の夏期研修生がやってきた。提携校である国立成功大学の学生で日本語の研修と日本文化の理解のため1カ月の予定で訪れたのであった。限られた時間のため場面シラバスを組み、見学や実習を織り込んで、日本人学生、地域の人々ともコミュニケーションを図りながら賑やかに終了した。双方とも得るものは大きかったという。



台湾からの研修生たち

風を感じて

風には国境はない。風は海を越えてやってくる。海岸に流れ寄る漂着物にはハングル文字も簡体字もあるという。夕陽を眺める人の心模様は、刻々と変わる空と海との微妙な色合いを映して揺れているのかもしれない。

あちこち 日本語 ご紹介

海外編



モルドバ共和国
キシノウ

自然と笑顔に囲まれて モルドバの日本語教育

モルドバ日本交流財団

小松恭子

モルドバってどこですか

モルドバという国をご存じですか？あるラジオ局が実施した、モルドバについてのアンケートによると、73%の人が国の存在すら知らないという結果でした。旅行会社の方でも、「モルドバ…国名は何ですか？」とお答えいただくレベルなので、このアンケート結果も当然と言えるのかも知れません。こんな風に見える私も、ほとんど知識を持たぬまま、とにかく行ってみななければ始まらないという思いだけを胸に旅立ちました。

こちらに来てまだ数カ月、日々モルドバについて勉強している最中ではありますが、この国の日本語教育について私を感じたことを報告させていただこうと思います。

俳句からJ-POPまで

モルドバは、ルーマニアとウクライナに挟まれた場所にあります。公用語はモルドバ語（ルーマニア語）とロシア語。家庭内ではモルドバ語を、会社など公の場ではロシア語を用いる傾向が強いようです。

私が勤務する「モルドバ日本交流財団」は2002年5月に設立されました。建物はモルドバ国立大学の敷地内にあり、現在大学生と一般学習者（子どもを含む）約120名が初級と中級に分かれ、日本語及び日本文化を学んでいます。



大学生のクラス

カリキュラムは大学生と成人学習者が週に3～4日、子どもは週に2日です。そのうち、週に1日はビデオやCDなどを使いながら日本文化を紹介しています。俳句からJ-POPまでこちらの人々の日本文化に対する興味は幅広く、対応する私たちも少しでも彼らに満足してもらえるよう準備に忙しい日々を過ごしています。教材は今年から初級が『みんなの日本語初級』を使用しています。ロシア語と英語の文法解説版は、学習者の要望があれば自習用教材として貸し出しています。中級は、『日本語中級』を主教材とし、今まで培ってきた文法・読解力に会話練習や表現練習を増やしながら4技能をバランスよく伸ばしていくことを目標としています。

子どもたちのサマースクール

モルドバ日本交流財団では児童教育にも力を入れています。夏にはサマースクールを実施し、2週間を1サイクルとしたカリキュラムを6サイクル実施し、合計250人の子どもたちが参加しました。各サイクルの最終日には日本に関するコンペティションを行います。子どもたちは、折り紙や生け花、漢字などを楽しみながらも真剣に競い合います。特に子どもたちの間では折り紙が大人気で、難易度が高い作品も次々と完成させてしまう器用さに、日本人である私たちもただただ驚くばかりです。このサマースクールは初めて日本語に触れる絶好の機会となっており、ここで日本に興味を持った子どもたちが9月からの本コースにも多数入学しています。児童（8～10歳）の本コースでは遊びの中からの学習というサマースクールの形式を生かしつつ、よりきめ細かく日本について学習するスタイルをとっています。



サマースクールで学ぶ子どもたち



コンペティションの様子。漢字の「山」を作っている



驚くほど見事な折り紙作品

これから求められるもの

在留日本人が5～6名（私たち日本語教師3名を含む）という現状もあり、授業で学んだ日本語を生かす機会がほとんどないことが残念でなりません。このような環境を補うための工夫（インターネットや衛星放送、Eメールを使っての日本語学習者との交流）、また留学・日本語能力試験など、より具体的な目標の提示が今後は必要不可欠となるでしょう。

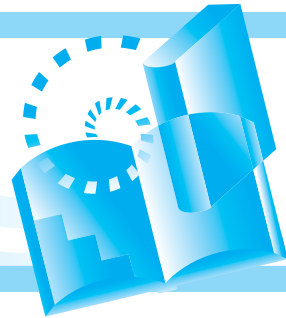
モルドバでの日本語教育はまだスタートしたばかりで戸惑うことも多々あります。しかしモルドバと日本の交流に少しでも貢献できるよう、また学習者に日本を身近に感じてもらえるよう私たち教師も努力していきたいと思っています。

教材紹介

『中級へ行こう 日本語の文型と表現59』

『短期集中 初級日本語文法総まとめ ポイント20』

『日本語教師のための新しい言語習得概論』



『中級へ行こう 日本語の文型と表現59』

日本語講師 平井悦子、三輪さち子

本書は『新日本語の基礎Ⅰ・Ⅱ』『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』など初級の終了者を対象として、タイトルの『中級へ行こう』のとおり、中級へのスムーズな移行を助けることを目標として作られたものです。10行～15行程度の読み物を読む力、あわせてテーマについてまとまったものを書く力をつけることを目指しています。

各課は「話しましょう・本文・新しい文型と表現・新しい文型と表現の練習・作文・聴解タスクシート」で構成されています。また各課の語彙・学習項目一覧には英語・中国語・韓国語の訳がついています。本書はCD付きで、速度の違う本文を2度聞くことができます。また、「聴解タスクシート」を使い、その課のキーワードを聞き取る練習も可能です。「新しい文型と表現の練習」は型を押さえるためのやさしいものから異文化を知る短作文に発展させるものまであります。

<p>第1課 ファストフード 第2課 地震 第3課 最近の子ども 第4課 インターネットの利用 第5課 睡眠 第6課 日本人の発明 第7課 リサイクルとフリーマーケット 第8課 あいづち 第9課 男の仕事・女の仕事 第10課 ことばの使い方</p>	<p>本文 CD 1-8</p> <p>ファストフード</p> <p>ファストフードのメニューで代表的なものは、ハンバーガーやフライドチキンなどです。最近ではおにぎりやスープなど、種類が増えています。また、日本ではよく見られる「宅配ピザ」も、世界中に広がっています。ファストフードは便利ですが、健康にも悪い影響を与えることがあります。そのため、バランスの取れた食生活を心がけることが大切です。</p>	<p>新しい文型と表現の練習</p> <p>1. 何となく、何となく</p> <p>2. 何となく、何となく</p> <p>3. 何となく、何となく</p> <p>4. 何となく、何となく</p> <p>5. 何となく、何となく</p> <p>6. 何となく、何となく</p> <p>7. 何となく、何となく</p> <p>8. 何となく、何となく</p> <p>9. 何となく、何となく</p> <p>10. 何となく、何となく</p>	<p>作文</p> <p>ファストフード</p> <p>ファストフードは世界中で人気があります。日本でもファストフード店は増えています。あなたはファストフードを好きですか？ 好きな理由を教えてください。また、ファストフードを食べると体に悪い影響があるという人もいます。あなたはファストフードを食べますか？ 理由を教えてください。</p>
--	--	---	--

本書の目次

第1課：本文

第1課：新しい文型と表現の練習

第1課：作文

実際に学習者が書いた「第1課 ファストフード」の作文をご紹介します。作文の「質問」に答えるだけでなく、テーマについて広げたり、新しい文法と表現を使った内容のある作文が書かれています。

●ベトナムの学生の作文

ベトナムで代表的なファストフードといえば、フォーです。フォーはヌードルと牛肉とねぎ、野菜などで作ります。わたしはファストフードはあまり好きではありません。しかし、ファストフードの店に1週間に5回も行きます。その理由は手軽に利用できること、うちが会社から遠いこと、昼休みの時間が短いことです。ですから、毎日の昼休みによく会社の人とフォー屋へ行っています。フォーはおいしいし、安い、あなたがベトナムへ行ったとき、ぜひフォーを食べてみてください。

第1課 ファストフードの学習項目

1. N1といえば、N2だ（N1の代表的な例N2を表す。）
2. も（数量を表す語と共に使われ、数量が多い〔大きい〕ことを評価する。）
3. Nは～こと、～ことだ（理由・原因等の列挙を表す。）
4. Vマス始めた

本書は中級への懸け橋となる総合教材としてだけでなく、作文・読解・聴読解などの技能を養成する教材としても使用できます。この教材が皆様のお役に立てば幸いです。

●セミナー「初級から中級への橋渡しの指導法」

今回の教材紹介でご紹介した『中級へ行こう 日本語の文型と表現59』『短期集中 初級日本語文法総まとめ ポイント20』の著者によるセミナーが12月12日(日) 14:00～16:15に、東京・日本教育会館で開催されます。詳しくは当社HPをご覧ください。http://www.3anet.co.jp

●フィリピン人の学生の作文

国に外国のファストフードがあります。マクドナルドとか吉野家とかへ行きました。大学の前にある店でKFCが一番近いですから、よく行きました。教室からKFCまで歩いて3分しかかかりません。簡単な昼ごはんは100円ぐらいです。それで、11時半から1時半まで込んでいます。店がいっぱいときは隣の店へ行きます。日本へ来てから、ファストフードはあまり食べません。日本へ住んでいるから、日本料理を食べてみたいです。

中級へ行こう
日本語の文型と表現59

B5判 140頁 CD付
2,310円
著者：平井悦子、三輪さち子



短期集中 初級日本語文法総まとめ ポイント20

B5判 160頁
1,470円

著者：友松悦子、和栗雅子

11月発売予定

日本語教師のための 新しい言語習得概論

A5判 280頁
1,680円
著者：小柳かおる



『短期集中 初級日本語文法総まとめ ポイント20』

拓殖大学留学生別科非常勤講師 友松悦子

初級の学習項目を一応終えたはずの学習者でも、全体的になんとなく未整理、あいまいで、このまま中級に進むのは心もとないと思われるような人がいます。また、機関の新学期スタート時に「ひとまず既習」というクラスを担当すると、学習者の言語知識がばらばらなためにすぐには中級の学習が始められない場合が多いことも、多くの現場教師が経験していることではないでしょうか。初級を終了してもスムーズに中級に進むのに不安を覚える原因として考えられることは以下の点だと思いません。

1. 初級のシラバスはおおむね構造シラバスであり、学習項目間に脈絡がないことが多い。そのため、個々の項目は一応できるが、あることを言いたいときにとっさに運用できない。
 2. 項目積み上げ式の学習では、1度学習したことはその後2度と取り上げられないので、学習者は他の項目との使い分けの整理ができない。
- 個々の言い方はいわばジグソーパズルのピースのようなもの

です。ピースを組み合わせた全体の図柄が見られるようになることが、この先うまく進めるかどうかの「かぎ」になると思います。日本語とはこういうことに注意しながら学習するのがいいのだというセンスがなんとなくわかってくれば、中級に入ってから文型も学習しやすいのではないのでしょうか。

本書は以上のことを踏まえて、大急ぎで初級全体の復習ができるようにとの願いから作られました。難しい切り口ではなくごく基本的なことも復習しながら、進行中の動作なのか、ある行為・できごとの結果が存続している状態なのかというアスペクトに関すること、どちらの立場にカメラアイを置いて述べているのかというヴォイスに関すること、事実を述べているだけなのか、話者の心的態度を表しているのかというムードに関することなど、日本語の感覚が自然につかめるようにと試みました。イラストが多用され、解説部分には英語、中国語、韓国語の訳がついているので、独習教材としても有効だと思います。中級への足慣らしとともに、橋渡しとしてお役に立てば幸いです。

『日本語教師のための新しい言語習得概論』

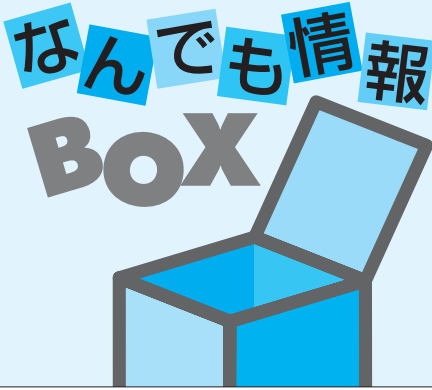
上智大学比較文化学部 日本語・日本文化学科助教授 小柳かおる

みなさんは、子どもの時どのようにして自分が日本語を覚えたのか、どのぐらい記憶しているのでしょうか。また、中学や高校で教科の1つとして英語を勉強した時、頭の中で何が起きていたのか、自分の何が英語に向いていたのか、向いていなかったのかと考えたことがあるのでしょうか。このようなことを意識したことはなくても、自らの学習者としての経験から、またその後の教師養成のトレーニングの中から、日本語教師として、あるいは日本語教師を志す学生として言語教育はこうあるべきだという考えをお持ちだと思います。

本書は、「いかに教えるべきか」を考える前に「人はいかに言語を学ぶのか」という原点に立ち返ってみようという趣旨で書きました。「言語習得」は長い歴史のある分野から見ればまだまだ新しい学問ですが、最近急速に関心が集まっている分野です。そして、患者を診断する医師がまず生理システムのメカニズムを勉強するように、また最近ではスポーツのコーチや選手が運

動機能のメカニズムに関して科学的なサポートを求めるように、日本語教師にとっても言語学習のメカニズムを知っておくことは有意義だと考えます。

日本人の子どもは外国人学習者と同様の誤りをおかすことがあります。第一言語習得(FLA)と第二言語習得(SLA)には共通点があるとされています。それは、どちらの場合も頭の中のメカニズムに同様の制約があるからです。しかし、一方で、日本人の子どもは一樣に日本語を習得しますが、外国人学習者はだれもがネイティブ並みになるわけではありません。よって、本書の中では、まずFLAを扱い、それからSLAの中で共通点、相違点が存在する理由を考えてみたいと思います。また、言語学習のメカニズムの観点から教室指導は習得過程にどんなインパクトを与えられるのかという研究も紹介しています。よりよい教室活動を考える上で、1つの情報源、判断材料としてお役に立てればと思います。



セミナー SEMINARS

●『みんなの日本語初級Ⅱ』の教え方・東京会場
 日時：11月13日(土) A 10:00~13:00 B 14:00~17:00
 11月14日(日) C 10:00~13:00 D 14:00~17:00
 11月20日(土) E 10:00~13:00 F 14:00~17:00
 11月21日(日) G 10:00~13:00 H 14:00~17:00
 講師：田中よね、沢田幸子
 (以上、『みんなの日本語初級』執筆協力者)
 費用：全8回：36,000円(1回：4,500円)
 会場：AOTS東京研修センター
 (講座参加者は宿泊可能です。お問合せください)
 定員：各回20名(10名より開講)
 主催：スリーエーネットワーク
 協力：(財)海外技術者研修協会

●『みんなの日本語初級Ⅱ』の教え方・大阪会場
 大阪会場は2005年の2月に開催予定です。
 日時：2月19日(土) A 10:00~13:00 B 14:00~17:00
 2月20日(日) C 10:00~13:00 D 14:00~17:00
 2月26日(土) E 10:00~13:00 F 14:00~17:00
 2月27日(日) G 10:00~13:00 H 14:00~17:00
 定員：各回20名(8名より開講)
 講師：牧野昭子、重川明美、御子神慶子
 (以上、『みんなの日本語初級』執筆協力者)
 費用：全8回：36,000円(1回：4,500円)
 会場：AOTS関西研修センター
 (講座参加者は宿泊可能です。お問合せください)
 定員：各回20名(8名より開講)
 主催：スリーエーネットワーク
 協力：(財)海外技術者研修協会

問合せ/申込み：スリーエーネットワーク講座係
 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-6-3松栄ビル
 TEL:03-3292-6410 FAX:03-3292-6194
 E-mail: ja-net@3anet.co.jp
 *両会場とも1回：3時間(計4日：24時間)で各回
 参加できる形です。各プログラムの詳細は講座係ま
 でお問合せください(日程、内容、講師等は変更の
 場合もございます)。

●九州日本語教育連絡協議会2004年度研修会
 「初級修了レベルの学習者への読解指導—中級への
 読みにつなげるために—『読むトレーニング 基礎
 編 日本留学試験対応』を使って」
 内容：前半は『読むトレーニング』を使った効果的な
 読みの指導について、後半は「日本語の教え
 方・よろず相談」の内容を予定しています。
 日時：12月11日(土) 13:00~16:00

ほん

BOOKS

本誌に表示した価格は税込価格です。

みんなの日本語初級Ⅱ 漢字練習帳	発売中	1,260円
導入・練習イラスト集	発売中	2,520円
新日本語の中級 分冊 ベトナム語訳	発売中	1,785円
新日本語の中級 分冊 タイ語訳	11月発売予定	1,785円
新日本語の中級 分冊 インドネシア語訳	11月発売予定	1,785円
新日本語の中級 文法解説書ベトナム語版	発売中	1,680円
新日本語の中級 文法解説書タイ語版	11月発売予定	1,680円
新日本語の中級 文法解説書インドネシア語版	11月発売予定	1,680円
中国語版 一人で学べる ひらがな かたかな	発売中	1,470円
タイ語版 一人で学べる ひらがな かたかな	発売中	1,470円
ベトナム語版 一人で学べる ひらがな かたかな	発売中	1,470円
インドネシア語版 一人で学べる ひらがな かたかな	発売中	1,470円
わかって使える日本語 練習問題	発売中	1,050円
わかって使える日本語 指導のポイント	発売中	1,050円
トピックによる日本語総合演習上級用資料集 第2版	発売中	2,100円
言語テスト概論	発売中	1,890円
読むトレーニング基礎編 日本留学試験対応	発売中	1,260円
日本語教師のための新しい言語習得概論	発売中	1,680円
中級へ行こう 日本語の文型と表現59	11月発売予定	2,310円
短期集中初級日本語文法総まとめ ポイント20	11月発売予定	1,470円

講師：山形美保子(『読むトレーニング 基礎編
 日本留学試験対応』共著者)
 会場：九州大学箱崎・文化系キャンパス・中講義室
 定員：150名(定員になり次第締め切ります)
 参加費：九日連会員700円、一般1,000円(当日納入)
 申込締切：11月30日
 申込み：①住所②氏名③電話番号④所属⑤区別(九日
 連会員か一般か)を明記の上お申込み下さい。
 問合せ/申込み：申込みはFAX メールをお願いします。
 福岡日本語センター
 川邊理恵(r-kawabe@f-nihongo-c.com) /
 門司剛(t-monji@f-nihongo-c.com)
 FAX:092-473-4190 TEL:092-437-5111
 九州大学留学生センター
 清水百合(shimizu@isc.kyushu-u.ac.jp)
 FAX:092-642-2144 TEL:092-642-2151
 共催：九州日本語教育連絡協議会(九日連)
 スリーエーネットワーク

お知らせ INFORMATION

●皆様からの投稿や各コラムへのご質問、ご意見等を
 お待ちしております。採用させて頂いた方には粗品を
 進呈いたします。本誌をご希望の方は、お名前、ご住
 所、所属をFAX等で編集室までお知らせください。無
 料でお送りいたします(国内のみとさせていただきます)。
 『Ja-Ne』第32号は2005年1月25日発行予定です。

●フォーラム「ことばとネットワーク」
 ネットワークという語には人のネットワークとITのネッ
 トワークの2つの意味があります。このフォーラムで
 は、多言語多文化社会で言語や国籍を越えたところにい
 かにネットワークを構築し、外国籍住民との共生や「内
 なる国際化」を実現していくについて考えます。
 日時：2004年12月4日(土) 受付10:30
 全体会 11:00~12:30 分科会 14:00~16:00
 構成：全体会(多言語多文化社会における「内なる
 国際化」)、分科会(第一分科会：多言語多
 文化社会、第二分科会：人的ネットワーク、
 第三分科会：ITによるネットワーク)
 場所：慶應義塾大学三田キャンパス東館6・7階
 G-SEC Lab
 主催：慶應義塾大学21世紀COEプログラム「日本・
 アジアにおける総合政策学先導拠点-ヒュー
 マンセキュリティの基盤的研究を通して-」
 「『ヒューマンセキュリティの基盤』として
 の言語政策」グループ
 後援：スリーエーネットワーク
 定員：約150名(分科会各50名) 参加費：無料
 応募締切：11月17日(後日、葉書でご返送します)
 問合せ/申込み：
 スリーエーネットワーク フォーラム担当
 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-6-3松栄ビル
 TEL:03-3292-6410 FAX:03-3292-6194
 http://www.3anet.co.jp e-mail: forum@3anet.co.jp
 *定員を超えた場合は抽選となります。

Ja-Net 季刊 ジャネット No.31

スリーエーネットワークという社名は、アジア(Asia)、アフリカ(Africa)、ラテン・アメリカ
 (Latin America) のいわゆる発展途上国の多くが存在する3つの地域をネットワークでつな
 ぎ、相互理解と友好の促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2004年10月25日発行
 ●発行人 藤崎政子
 ●発行所 (株)スリーエーネットワーク
 〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-6-3松栄ビル
 Ja-Net編集室 TEL 03-3292-6410 FAX 03-3292-6194
 営業部 TEL 03-3292-5751 FAX 03-3292-6195
 http://www.3anet.co.jp E-mail: ja-net@3anet.co.jp
 ●印刷 日本印刷(株)
 © 2004 by 3A Corporation Printed in Japan (禁無断転載)